

比謝川行政事務組合 地球温暖化対策実行計画（事務事業編） 実施状況（2018 年度実績）

1 二酸化炭素排出量削減目標達成状況

比謝川行政事務組合の事務・事業により排出された 2018 年度の温室効果ガス排出量は、10,923 t-CO₂ で、基準年度（2017 年度）に比べ 287t-CO₂ 減少しました。これは、杉の木が年間に吸収する二酸化炭素量の約 21 本分に相当します。

減少した要因は、一般廃棄物処理施設において、ごみ焼却施設の基幹的設備改造事業に伴う 24 時間運転の実施より A 重油の使用量が減少したことや、電気使用量などが下がったことが要因となっております。

今後、さらに環境に配慮した施設の運転管理等に努め、比謝川行政事務組合の事務・事業により排出される温室効果ガス排出の抑制を図ってまいります。

表 1 基準年度との比較

区 分	排出量		削減量 (削減率)
	基準年(2017 年度)	2018 年度	
温室効果ガス	11,210 t-CO ₂	10,923t-CO ₂	△287t-CO ₂ (△2.5%)

2 比謝川行政事務組合の施設毎の温室効果ガス排出状況

比謝川行政事務組合の各施設毎の温室効果ガス排出状況は下記のとおりです。

表 2 2018 年度施設毎の温室効果ガス排出量

No.	施設名称	排出量（単位 t-CO ₂ ）		
		2017 年度	2018 年度	比較
1	一般廃棄物処理施設	10,518.3	10,233.8	△284.5
2	一般廃棄物最終処分場	99.6	102.3	2.7
3	ニライ消防本部	591.2	586.4	△4.8
4	事務局	0.6	0.3	△0.3
	合 計	11,209.7	10,922.8	△286.9

3 要因別の温室効果ガス排出状況

比謝川行政事務組合の事務・事業による温室効果ガス排出状況を要因別にみると、ごみの焼却によるものが全体の74.79%を占め、次いで電力使用によるものが22.80%となっています。

表3 要因別の温室効果ガス排出状況

	電力	ガソリン	軽油	A重油	LPG	自動車の走行	ごみの焼却	
	使用量	3,226,762 kWh	29,624 L	18,176 L	51,931 L	707.8 m ³	190,998 km	16,339 総焼却量 t
排出係数	0.000772 t-CO ₂ /kWh	0.00232 t-CO ₂ /L	0.00258 t-CO ₂ /L	0.00271 t-CO ₂ /L	0.00655 t-CO ₂ /m ³	※ t-CH ₄ /km t-N ₂ O/km	0.000077 t-CH ₄ /t 0.0000539 t-N ₂ O/t	2.765 t-CO ₂ /t
	温室効果 ガス排出量 (t-CO ₂)	2,491	68	47	141	5	1.88	293.9
割合 (%)	22.80	0.62	0.43	1.29	0.05	0.02	74.79	

図1 2018年度の要因別の温室効果ガス排出状況

